

(様式)

第 4 回かわにし市民会議 議事メモ

班	1 班「産業の活性化」
コーディネーター	荒井 英明
ナビゲーター	平田 麻莉
説明担当者(自治体)	なし
日時	2019 年 8 月 24 日(土) 13 時 00 分から 16 時 30 分
場所	保健センター 1 階集健室
その他	参加者数 16 名

趣旨・概要

フリーランスについて
産業について

総括

班発表者総括

皆さんの意見がつながり、インターチェンジ周辺の活用で川西市の自然や良さを分かってもらえる、市民からも喜ばれるいろいろな提案がでた。

フリーランスやコワーキングなどを身近なものと感じることができ、行政の関わり方次第では大きな産業につながる可能性も感じた。

ナビゲーター総括

川西市内で働く場所がないという背景から、自分自身で小さな商い・事業を興すフリーランスやテレワークのことを紹介した。特別なスキルがないとできないと思われる人が多いが、老若男女、障害のある人もない人も誰もがチャレンジできるので、そういったチャレンジを行政がサポートをするというのもよいのではないかと。

協議の流れ

1 第 3 回市民会議振り返り

産業の「業」の「なりわい」は、我々が生活をするために仕事して給料をもらい、自分以外の人たちにサービスを提供することである。産業を発展させるには、次の 3 つの方法がある。新しい産業を外からもってくる。現在すでに川西市にある産業を伸ばす。新たに市内で仕事を始める、あるいは働く場所を作る。前回までの議論で、働く場所がないとか、高齢者が働ける場所を作るとか、市内でものを買わないなどの課題がでた。皆さんがやりたい街を考えたときに、どういうやりかたで発展させるのか、そういったことを今日は考えていく。

今までの議論の中で、駅周辺は都会的な香りがして郊外に行けば自然がいっぱいあるという地域的な多様性と、子どもからお年寄りまで住んでいる人たちの多様性があるまちというのが見えてきている。多様性のある街を一つにまとめて皆さんが求めている理想のま

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

ちを描いて、こういうまちにしたい、こうあってほしいことを抽象的でもよいのでイメージして、今回の会議を行い、意見シートに取り込んでほしい。

なお、前回までの会議での意見について次の2点を市の担当課に確認した。

一つは、舎羅林山は住宅地として造成が終わっているので大きな区画を必要とする工場や物流の産業を誘致するとなると、造成をやり直さないといけないので住宅地以外の活用は難しいということ。もう一つは、高速道路のトンネル建設で閉鎖になったゴルフ場の跡地に教育施設等を誘致するという意見があったが、起伏が大きい敷地なのでゴルフ場以外の利用は難しいということである。

2 「場所にとらわれない働き方」

～フリーランス、リモートワーク、コワーキングスペース～

(ナビゲーター (社)プロフェッショナル&パラレルキャリアフリーランス協会
代表理事 平田 麻莉氏より説明)

- ・ フリーランスとは特定の企業や団体、組織に専従しない独立した形態で、自身の専門知識やスキルを提供して、対価を得る働き方である。法人化して一人だけの会社を興したり、個人のまま開業届を出して始める人、特に開業届も出さずに始める人などさまざまな形態がある。起業家との違いは、自分自身が売り物であるということである。最近では、普段は会社に勤めながら、休日に、副業としてフリーランスで働く人も出てきている。
- ・ フリーランスを始めるにあたって、ハードルを高く感じる方がいるが、IT技術が進化したことにより、金銭的には少ない初期投資で始めることができる。また、立ち上げにあたって専門的な知識も不要である。さまざまなSNSの普及により、営業も容易になった。これらの理由から、独立・副業の敷居が低下し、労働人材不足と経済縮小から多様な働き方が可能になり、またそのような働き方が求められる時代になったことでフリーランスへの注目が高まっている。
- ・ スマートフォン 1 台あれば簡単に仕事を請け負うことが可能となった。フリーランスの職種は多様化しており、企業も様々なマッチングサービスがある。
- ・ 政府も様々な方向性から環境整備や活用が模索している。
- ・ コワーキングスペースの提供する価値もどんどん広がっている。かつては単に作業場としての価値が高かった。今はそれだけではなく、いろいろな機能をもったコワーキングスペースが出てきている。託児所付きや図書館併設、印刷機器がそろっているところなどだ。
- ・ コワーキングスペースの大事な価値として、つながりやコミュニティを生み出すということがある。そこで働く人同士が協業したり、イノベーションがおきるように、コミュニティマネージャーがいてマッチングを行ったりしている。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

- ・ また、気分転換やリフレッシュもできる付加価値のある機能の整った場所を提供しているコワーキングスペースもある。もし、川西市でコワーキングスペースを作るとしたら、どういうところに価値を置くのかということを考える必要がある。
- ・ 場所にとらわれず空間を超えて仕事をする時代になってきているので、川西市に住みながらいろいろな仕事に挑戦してほしい。

コワーキングスペース

- 参) コワーキングスペースの利用料金どれくらいなのか。
- ナ) 月額数万円や1日利用といった料金形態がある。いろいろだ。
- 参) コワーキングスペース設置の目的もさまざまである。
- コ) 川西市で今コワーキングスペースを作ろうと思っても、たぶん採算が合わない。軌道に乗るまで行政がバックアップするというやり方もあるだろうか。
- 参) 設置にあたっては、運営費を利用者の料金で賄えるかどうか判断基準である。個人的には箱から作るのではなく、コワーキングスペースを使うであろうコミュニティを先に作っていき、その人たちの活動がより活性化されるような場所としてコワーキングスペースを設置していくのが良いと思う。
- 参) コワーキングスペースを作ることは新しいし、カッコいいが、ネットワークやコミュニティをつくってからでなければならぬと思う。
- コ) 行政がコワーキングスペースやフリーランスに支援することについてはどう思うか。
- ナ) 最終的には自立してもらうのが当然望ましいが、新しい働き方をするとき、色々なツールの使い方の講座や、企業とのマッチングサービスやプロフィールを作るといったキャリアセミナーを公共サービスとして行うのが良いと思う。
- 参考事例として、奄美大島の奄美市では、島の中に産業がないので外の仕事を持ってくることを大事にしており、個人事業として起業した方を支援するための課が設けられている。
- コ) 確かに、始めるときのセミナー、マッチング支援や経営相談、支援などの後押しは行政ができることである。

テレワーク

- 参) 自宅にいながら東京や大阪の企業から仕事をもらうことができるテレワークが、川西市の産業の活性化にどのように結びつくのか。
- ナ) 今はまだ首都圏の仕事を地方の人材が担うというケースが多いが、自分自身が事業者になるということであるので、スモールビジネスの創出にはなっている。仕事がないと感じていた人が、テレワークで仕事をすることが出来るのであれば、税収増にもつながっていく。それが第1段階の価値である。第2段階としては、地元企業が発注主となり業績をあげていくことである。

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

コ) 働き方改革という観点でテレワークを活用するというのもある。それからフリーランスでやっていくという方法もある。いずれにしても川西市内で仕事をしてもらえればよい。小さくとも他業種に少しずつ影響を与えていくと思う。

3 産業について

コ) キセラにできた公共施設とショッピングタウンも新しいもので様々な感想をお持ちのようだが、皆さんも利用してこういう課題を直せばもっと良くなるよというような提案をして盛り上げよう。

インターチェンジ周辺の新しい産業

コ) 仮に、北部のインターチェンジ周辺を産業誘致ゾーンとか新たな産業創出エリアと位置づけしたとして、新しい産業を外から呼び込むとしたら、まちの発展に繋げるにはどういうものがあつたらいいと思われるか。

参) 高速道路を活かして、物流の倉庫等を考えるのが良いのだと思う。三田市のように工業団地を誘致するのは、おとなしい川西のイメージに合わないのではないか。

参) インターチェンジは、4つの高速道路に接続している。それを生かすべき。

参) 猪名川町は物流倉庫を誘致している。

コ) 大きなエリアとしてとらえ、猪名川町と連携してもよいと思う。

参) 自然を活用した子供たちも遊べるアクティビティ的なもの、オートキャンプ場を備えたリゾート施設。

参) 高速に乗る前、降りてきたときに食事をする場所、休める場所があると良いのではないか。食事やシャワーまたは温浴施設がある、高速道路からも料金がかからずアクセスできる、道の駅のような市民に喜んでもらえるエリアになればよい。

コ) ひょっとすると道の駅というネーミングも新しいものを考えた方がいいかもしれない。

参) 「道の駅」というネーミングは古いという意見もあるが、私は、施設のイメージが定着しており、特産品が売っているということがわかり、安心感があるので良いと思う。

参) 猪名川町の道の駅が移転し、ハイウェイオアシス的な施設ができるという話を聞いた。それと同じようなことをすることにならないか。

参) 自然を生かした体験や工作ができ、菊炭を使ったカフェがあるなど思い出を作れる通過点でもあり、通過点としてだけではなく、目的地にもなれるような施設があればよい。

今ある産業

コ) では、今の産業を盛り上げていくとしたら、どんなものがあるだろうか。たとえば、オアシスタウンに市民が買物に行けば、地元の小さい商店には行かなくなってしまう、

参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

(様式)

それらの小さなお店もなくならないよう活性化するにはどうすればよいだろうか。

参) インターチェンジ周辺に何か施設をつくるとして、特産物を片隅で売ることができないか。個人商店のものも置いてあるというのが良いと思う。

コ) たしかに、大手と個人商店の連携、共存できるのがいいかもしれない。

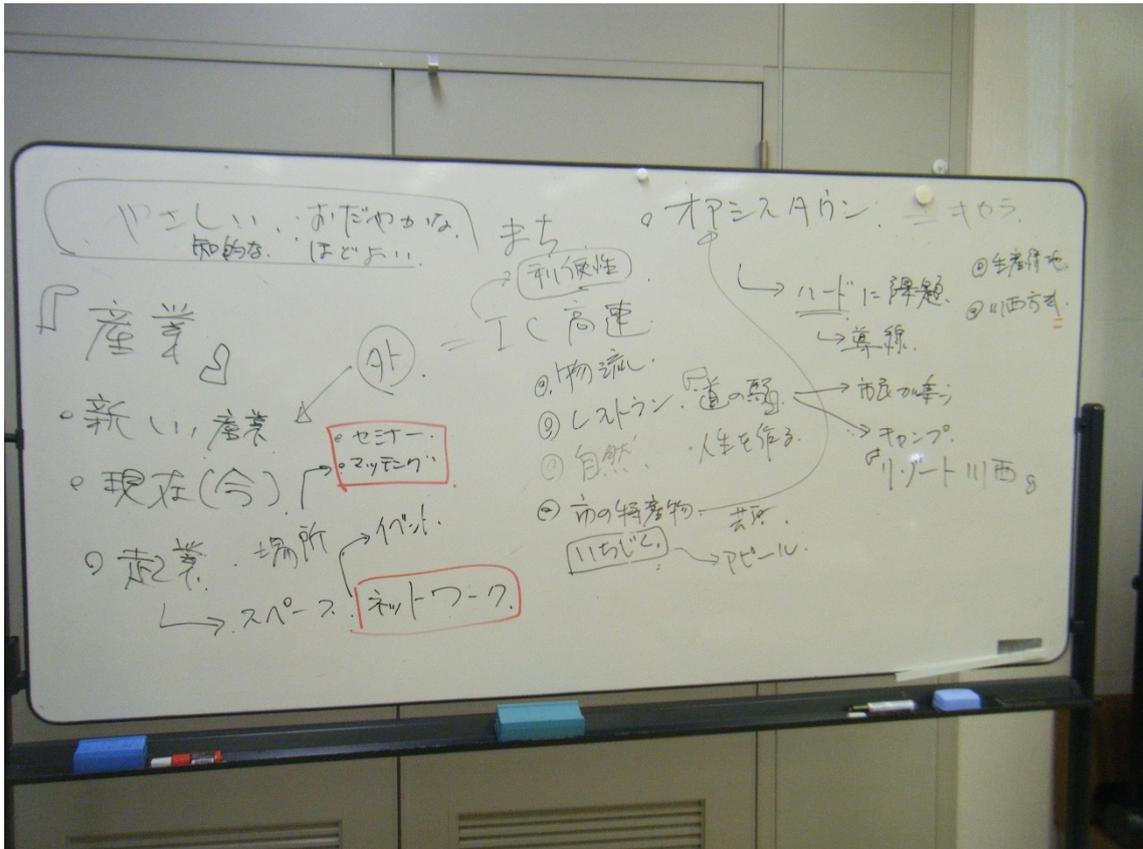
参) イチジクで例えるならば存在をアピールするのではなく、その物の魅力や食べ方をPRすることが大事。

コ) 川西市というまちをアピールする際にも必要な考え方だと思う。〇〇があるから、こういう人が住んでいるから、川西市がよい街だといえるようなものを考えていかなければならない。

映画の例でいえば、映画館をつくることではなく、映画を観る文化をつくることから始めなければならない。

参) 世代別にターゲットを絞ったたくさんのイベントを開催して、市のイメージを作っていけばよいのではないか。

ホワイトボードの写真



参) : 市民参加者、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者